



セ
タガヤ

ボ
ランティア

ネ
ットワーク

今月のトピック

- 特集 P.2-5

「回復」を信じて、仲間と進む。
依存症と向き合い続ける人々の物語

- まちの市民力 P.6

ぬくぬくの家

- お知らせ P.7

烏山ボランティアビューローの新設
北沢ボランティアビューローへの名称変更

●イラストレーター 海

最近ハマっていることはアニメのワンピースを見ることで、得意なことは絵を描くことと歌うことです。

●わたしの世田谷

私は世田谷区が好きです。以前はこの街のことをあまり知らなかったのですが、ボランティア活動を行ううちに知らなかった街の顔が見えてきて、地域の方々の優しさや笑顔に触れて、この街のためにやれることやりたいことを探すようになっていました。この表紙イラストもそのひとつになることを願っています。





特集

「回復」を信じて、仲間と進む。 依存症と向き合い続ける人々の物語

特定非営利活動法人 STORY のリサイクルセンター。地域の人々で賑わいます。

ただの酒飲み、という誤解

依存症、と聞いてどんなイメージが浮かびますか？ 芸能人が薬物使用で逮捕された時のニュースを思い出す、という人も多いのではないのでしょうか。しかし、過ちを犯し、バッシングを受けた彼らが「回復」していく過程をメディアはほとんど報じません。依存症は、医療機関や相談機関を利用することで回復可能な病気であるにも関わらず、報道は「本人の意志が弱い」「人間性の問題」という自己責任論に集約されてしまう側面があります。

特定非営利活動法人 STORY の施設長、加藤みお子さんは、「アルコール依存症は『ただの酒飲み』というイメージがまだまだ強いかもしれません。ただの酒飲みは、一晩飲んでも次の日は普通に仕事に行ける。でも、依存症者は朝からお酒を飲まずにはいられず、生活が破綻してしまいます。」と教

えてくれました。「特効薬が確立されていない中、習慣化されてしまったものをどう断ち切っていくか、どう生活を立て直していくかを考えていきます」。

STORY は 1995 年、アルコール回復支援施設「アルコール共同作業所すとおりい」として桜新町に設立されました。今年で 28 年目。現在は、回復プログラムを学ぶ生活訓練と、リサイクルセンター「すとおりい」を運営する就労継続支援 B 型（就 B）からなる、多機能型の依存症回復施設です。加藤さんはこの仕事に携わって 25 年になるそうです。

「都立松沢病院が精神科で依存症を取り扱っていたので、その先生方や、地域の保健師さんたちが設立に尽力されました。依存症者の回復には社会的なネットワークが必要、という観点がありました。病院、保健師、ケースワーカー、すとおりいのような施設がタッグを組んでいかないと、依存症者の

生活全般を支えていくのは難しいですね」

回復への物語を綴る場所

就Bで、なぜリサイクルセンターなのか。実は、それにも理由がありました。STORYは「三つのR」を掲げています。「依存症からの回復 Recovery」「Recove



お店で販売するオリジナル製品の名刺・ハガキ等は、牛乳パックをリサイクルし紙漉ぎで製作する。

ehabitatation」地球の限られた資源を再利用・Recycling (Reuse) です。

「リサイクルセンターに集まるものを磨き直し、社会に送り出す様子に、依存症者たちが回復して社会復帰することを重ね合わせられるように……設立当時、そんな思いがあったようです。団体名の『STORY』には、自分たちの回復の『物語』を一ページずつ書き綴っていきましょう、という願いが込められています」

回復、という言葉をも、取材中何人も聞きました。生活が破綻し、人間関係も壊れ、自身の心も体も傷ついたボロボロの状況から、依存症者はどのように回復を目指していくのでしょうか。

「よくスタッフにも言うようにしてるんです。彼らは40年、50年かけてその生き方を積み上げてきてしまったのだから、40年、50年かけてしか回復しないよ、と。施

設に通い始めたからって、急に1、2年で変わるものではない。一生付き合っていかなければならない病気なんです」

STORYの定員は、生活訓練が6名、就Bが14名。他の施設からやってきてすぐに就Bからスタートする人もいれば、生活訓練の座学、コミュニケーションで地道に生活を立て直し、就Bに移行する人もいます。すとおりに通いながら、AA（注：アルコール依存症者の自助グループ）に参加している人も。28年ほどの歴史の中で、就労した人は10名程度だと加藤さんは振り返ります。その少なさから、依存症からの真の回復の難しさが伺えます。

自主性を尊重することが大切な理由

「せっかく積み上げてきたのに飲んでしまっ、また振り出しからになってしまい、病院に入院しなければならなくなるケースは



宿泊研修のプログラムで、自然の中で生き物に触れる。

しよっちゅう。でも、卒業してこ
こを支援してくれている方たちも
いて、たまに挨拶に来て、近況を
報告してくれると本当にうれし
い。「依存症者は自分の話をする
のが苦手な人たちが多く、その気
持ちをちゃんと理解できるように
努力しています。とにかく、しつ
かり話を聞く、ということからし
か始まりません。また、STORY
Yはアルコールチェッカーを導入
していません。」飲んでしまった、

というのは自己申告なのでしょう
か？ 加藤さんは「見ればすぐに
わかりますよ」と笑います。「厳
しく禁止すると、飲んだら来なく
なってしまう。でも『誤魔化せる
かな』と思つたらとにかく来るで
しょ(笑)。すると『飲んだでしょ』
と指摘されて、本人が『やばいな』
と実感する。そのやりとりが回復
のためにとても大切なことだと、
設立当初の先生方から教わりまし
た。タイミングを見て、最近どう
したの、と声をかけてみる。する
と飲酒したことを話してくれます
(否認もしますが)。それなら今度
はこんなふうにはトライしてみよ
う、と会話ができるんですね。」
こうしたSTORYのポリシー
が支えになつているという利用者
さんがいました。彼はアルコール
とギャンブルの依存症。生活訓練
で2年、就労Bで訓練して5年目
になるそう。「最初は、別の依存
症回復支援施設に通っていたんで
すが、寮生活でかなりルールが厳

しく、自分には合わなかつたんで
す。合う人、合わない人がいると
思います。そこで『STORYは
家庭的でいいよ』と紹介されまし
た。利用者のペースを尊重してく
れるのが自分には合っていたみた
いです。ここにいると、仲間たち
と同じ目標を持って頑張れる。み
んな回復していくんだなあ、と実
感します。とても居心地がいいけ
れど、本来はここをステップに自
立していかなければいけない。こ
このOBになるのが今の目標で
す」

自助ばかりが求められる今の日本で

「とにかく仲間がいることが大
事です。一人で我慢断酒という
のは、なかなか辛いんですよ」と
教えてくれたのは、生活訓練を担
当する生活支援員の柴田さん。実
は柴田さんもアルコール依存症者
です。「依存症者の施設には当事
者の視点が必要です」と加藤さん



生活訓練で使用している教科書。『アルコホーリクス・アノニマス』（右端）は1939年にアメリカで出版された後70近くの言語に翻訳されているバイブルのような一冊。

は言います。

「私は以前メーカーで約40年働いていたのですが、仕事でストレスがあるとお酒に走っていました。自分がアルコール依存症者だなんて思いもよりませんでした。そのうち具体的な症状が現れてくるんです。手の震えとか、汗がどんどん出てくるのか、打ち合わせをしていても内容が全く頭に入らず、お酒のことばかり考えってしまうとか」

A Aに参加するようになり、柴

田さんは気づいたことがあります。『「アルコホーリクス・アノニマス」（注：A Aの精神的支柱になつているテキスト）に、『棚卸し』という項目があり、自分の人生を子どもの頃から振り返り、あの時の出来事で自分はこう思った、感じた、というのを書き出していきます。すると、自分でも驚くような気づきがあったりします。よくよく考えてみれば、これまで仕事ではスムーズに話せても、自身自身のことを省みて言語化するというのは、全然できていなかった。また、仲間とのつながりから、利己心が薄くなり他者の存在にも心を向けられるようになりました。依存症者でなくとも、自分自身を知り、これまでの人生と真摯に向き合うのは大変なこと。加藤さんは、「この仕事をしていると、私自身も相当生きづらさを抱えていたんだと気づきました。逆に利用者さんに教えられている気持ちです」と語ります。STORYが対

応するアルコール、薬物、ギャブル以外にも、社会にはさまざまな依存症があります。競争に駆り立てられ、孤独を強いられ、精神的に強いストレスと隣り合わせの現代社会では、誰もが依存症になる可能性があります。と言っても過言ではありません。「女性のアルコール依存症者も増えてきました」と加藤さん。「今の日本では『自助』ばかりが求められて、セカンドチャンスも得にくい。しんどい時に誰かと助け合うことが難しくなっています。困っている人同士で手を取り合いやすくなれば、少しはいい社会になるのかな」

依存症からの回復への道のり、そして、STORYの利用者・職員が自分自身と他者の人生に丁寧に向き合うプロセスは、現代社会を生きる私たち全ての生きづらさを解きほぐすヒントになるのではないかと。そう思われた取材でした。

（取材／編集委員 清藤 千秋）





人の体温が感じられる
ホッとできる居場所

ぬくぬくの家

まちの 市民力!!

取材・市川 徹

●
街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



コロナ禍以前の
子ども食堂の様子

北烏山にある住宅地の一軒家。ここに子ども食堂「ぬくぬくの家」があります。普段は静かですが、月3回のお弁当の配布日には多くの子どもたちが集まって賑やかになります。現在は約30家庭の子どもたちに約80食を提供しています。

この「ぬくぬくの家」を主宰しているのが井山順子さん。約40年前から在住、町会など地域でも長く活動し、その中で「子ども食堂」の存在を知ったとのこと。自分の地域にそうした活動がないことから、何かできないかと思案、自宅を開放して2019年に活動を始めることにしました。人々が交わる温かい「ぬくぬく」場所を作りたい。

くて「ぬくぬくの家」と名付けた
そうです。

開始当初からそれまで培ってきた地域のネットワークを生かして、子ども食堂に加え、お昼にはコミュニティランチも行い、多様な世代の多くの人たちが集まる場となっていました。コロナ禍を経て一時休止していましたが、このままではつながりが途絶えてしまうと、会食からお弁当の配布に切り替えて再開することになりました。

お弁当に必要な食材は周囲からの寄付や助成金などでまかなっているそうです。約80食を用意するため、配布日は朝から一日かけて準備を行います。活動を手伝って

くれる方もいますが、無理になつてしまふと続かないことから参加は自主性に任せているとのこと。

単にお弁当の配布だけでなく、突発的な食材寄付があつた場合は別途配布の日を設けたり、困っている家庭には個別に連絡するなどのきめ細かい対応もしています。また、子どもたちと、ハロウィン、精米体験、おせち作り、夏まつり、七夕、ケーキ作りなどの季節感ある活動も続けているそうです。

どうしてこのように精力的に活動できるのでしょうか。井山さんは、親子の喜ぶ姿が活動の原動力と言えます。「お金や食べ物では解消できない『心の貧困』こそ重大な問題。人とのつながりの大切さを感じてもらえたら」。今後はコミュニティランチを復活して多世代の交わる場にしていきたいと展望を語ります。井山さんの行動力と人柄には感服するばかり、元気になる親子が増えたらと思います。



ぬくぬくの家
世田谷区北烏山 7-6-11

ホームページ: <https://cakeshop2008.wixsite.com/nukunuku>
インターネットやインスタグラムで「ぬくぬくの家」と検索

2023.3.1 No.227・SEVONE

烏山ボランティアビューローの新設 北沢ボランティアビューローへの名称変更

烏山ボランティアビューロー 内覧会のお知らせ

3/29・30
水 木
13:00-16:00

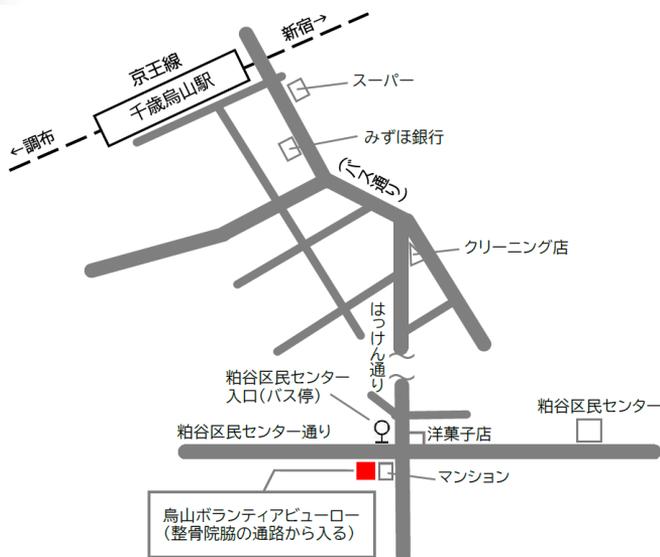
【住所】世田谷区上祖師谷 1-11-14
千歳烏山駅東口から徒歩 10 分、
バス停「烏山区民センター入口」からすぐ
TEL 03-6909-0333 FAX 03-6909-0355
e-mail karasubora@otagaisama.or.jp

新しくできる烏山ボランティアビューローを自由に見学していただけます。会議室の様子も見ていただけますので、ビューローを活動場所に検討されている団体さんなど、ぜひ現地においでください。

区内にあるボランティアビューローでは、地域の皆さんからの「ボランティアをしたい！ボランティアのサポートがほしい！」といった相談や、ボランティアの養成講座、スキルアップのための勉強会なども実施し、地域で温かい「おたがいさま」の輪が広が

お手伝いをしています。また、ボランティア団体が活動する場、子どもや学生のボランティア体験など、気軽にボランティア活動ができる環境づくりも進めています。4月から、新たに烏山地域に「烏山ボランティアビューロー」が開設されます。また、梅丘で長年地

域に溶け込んできた梅丘ボランティアビューローを「北沢ボランティアビューロー」と改称し、北沢地域の活動の拠点としてスタートします。お困りごとや活動の相談など、ぜひ世田谷ボランティアセンターやビューローにご連絡ください。



ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

のかわからないという方は、ご相談ください。

電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 57112・5101

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生・高校生の個別の学習支援に取り組みボランティアを探して紹介しています。

現在は、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの学

習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 高居・原口
TEL 57112・5101
takai@otagaisama.or.jp

ボランティア求む

交流の場のお手伝いをして下さる方を募集

地域の方々が気軽に集える居場所を立ち上げた方がボランティア募集をしています。昨年9月から上北沢で交流の場を立ち上げました。おしゃべり、軽い体操、ゲームなどを参加者と一緒に楽しみながらお手伝いして下さる方を募集します。

お問合せ時には「上北沢の居場所のボランティアの件」「氏名」「住まいの地域」「電話番号」をお知らせください。

●日時／第4金曜 12時半～16時
●場所／上北沢ふれあいの家（世田谷区上北沢3・26・4）
●交通／上北沢駅南口徒歩7分
●条件／上北沢に無理なく来れる方
●問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当 池田
TEL 64111・4007
kinutabora@otagaisama.or.jp

東 急募！いっしょに勉強してくれる女性求む！

等々力近辺にお住いの小学校低学年の女の子が、平日の放課後や週末に、一緒に宿題をしてくれる方を探しています。学習がゆっくりめで、音読や計算に時間がかかります。そばに寄り添って、女の子のペースに合わせて教えてあげてください。お人形遊びが好きで、明るくて活発な女の子です。子ども好きで、一緒に勉強をして

くれる方、お待ちしています。

●日時／平日放課後。土日。時間応相談。週1回から

●場所／自宅

●条件／女性、交通費応相談

●問合せ／玉川ボランティアビューロー
TEL 3707・3528
tanabora@otagaisama.or.jp

東 高2男子の学習支援ボランティア募集

等々力にある児童福祉施設で高校2年生の男子が学習支援を必要としています。カードゲームやウンビースなどのアニメが好きな男の子で、寄り添いながら一緒に取り組んでもらえる理系の大学生を探しています。支援してもらいたい教科は数学・理科・英語で、本人がその日やりたいものを学習します。本人のペースでかかわってください。ご連絡をお待ちして

おります。

- 日時/火、木の週2回。19〜21時の間に1〜2時間程度。(週1回でも可、ご相談下さい)
 - 場所/等々力にある児童福祉施設
 - 条件/理系の大学生・大学院生、交通費支給
 - 問合せ/玉川ボランティアビューロー
- TEL 3707・3528
tanaborata@otagaisama.or.jp

京小 代田6丁目での学習支援ボランティア募集

代田に住む小学3年生と1年生の兄妹が、夕方の時間に宿題と一緒に取り組んでくださる方を求めています。国語の音読や算数などを一人30分程度ずつで、二人分あわせて約1時間をお願いしたいと思います。学校では周囲についていけるよう頑張っていますが、自宅での学習となる大人の助けが必要で。サッカーやゲームが好きなお兄さんと、お話が好きな活発な雰囲気のお兄さんと

です。できるだけ長期間関わって下さる方であれば助かります。

- 日時/月〜金の中で可能な日、15時〜17時の間で1時間程度
 - 場所/代田6丁目のご自宅
 - 交通/新代田駅徒歩3分、または下北沢駅徒歩10分
 - 問合せ/梅丘ボランティアビューロー 担当 石川
- TEL 3420・2520
unehora@otagaisama.or.jp

小 付き添いボランティア募集(上祖師谷三丁目)

軽度の知的障害がある50代の女性で、日中の活動場所まで同行して下さる方(行きのみ)を募集しています。明るく朗らかで、いろんなことに興味があります。活動場所までの道のりを、お散歩気分ですっきり付き合ってくださいとうれしいです。詳細はお問い合わせください。

- 日時/平日朝9時から2時間ほど(週1回から可)
 - 場所/上祖師谷のご自宅から喜多見(バスと電車を乗り継ぎ)
 - 条件/交通費支給
 - 問合せ/砧ボランティアビューロー 準備室 担当 花輪
- TEL 6411・4007
knutaborata@otagaisama.or.jp

小 高1女子の学習支援ボランティア募集

通信制高校1年生の女の子に寄り添いながら、一緒に課題提出(特に数学と英語)に取り組んでくれる女性を探しています。ダンスやサッカーが好きな活発な女の子です。ときにはおしゃべりも楽しみなが、かかわってもらえるとうれしいです。詳しくはお問合せください。

- 日時/月・火・水・金のいずれか10時〜17時の時間帯で2時間程度(回数・頻度は応相談)
 - 場所/祖師ヶ谷大蔵駅周辺のフリースペースなど
 - 交通/祖師ヶ谷大蔵駅近辺
 - 条件/大学生以上の女性
 - 問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 原口
- TEL 5712・5101
haraguchi@otagaisama.or.jp

「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

京 子どもたちの居場所づくりボランティア募集

放課後に地域の小学生が集まる居場所ので、学習の見守りや遊び相手・話し相手になったり、会場の片付け等をしてくださる方を募集しています。この場所では、小学生への食事提供も行なっています。

●日時／祝日を除く毎週月・金曜日、14時半～20時の間で1日4時間以上可能な方（1か月の参加回数は応相談）

有償スタッフ募集

小 女性の介助者募集

世田谷区桜丘で1人暮らしをしていての女性を介助してくださる方を募集します。女性は一人で外出したり、食事をすることができません。笑い上戸でツボに入ると止まりません。路上アーティストのライブにも一緒に行ってもらえるとうれしいです。介助内容は着替え、食事、トイレ、外出、その他身辺介助です。

●日時／文中記載
●場所／世田谷区桜丘
●条件／1300円～1420円（交通費別）、女性
●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 原口
TEL 5712・5101
haraguch@otagaisama.or.jp

東 家事をサポートしてくれる女性募集

東玉川にお住まいの目的不自由な80代の女性が、家事をサポートしてくれる方を探しています。お野菜を切ったり洋服をたたむ、ネットでのお買い物など一緒にお手伝いしてくださると助かります。活動日と時間は相談は決めたいと思います（1回2時間程度）。女性の方のご応募お待ちしております。

●日時／月・土（時間は要相談）
●場所／東玉川の自宅
●交通／田園調布駅徒歩15分
●条件／1時間1000円（緊急介護人の登録）、女性
●問合せ／玉川ボランティアセンター
TEL 3707・3528
tanabara@otagaisama.or.jp

講座・その他・募集

小 梅丘ビュロー近所カフェ 「ギター伴奏で口ずさみましょう!!」

代田ボランティアビュローと梅丘ボランティアビュローが統合し、梅丘で実施する最初のご近所カフェです。
今回のお楽しみ企画は「ギター伴奏で口ずさみましょう!!」歌は人と人をつなぎます。みなさんのお好きな歌は何ですか？懐かしい曲、思い出の歌、お気に入りの歌をみんなで口ずさみましょう。まだまだ大きな声では歌えませんが、ギター演奏にあわせて音楽を楽しみましょう。リクエスト曲があれば、申込み時にお知らせください。

●日時／3月18日（土）13時半～16時
●会場／梅丘ボランティアビュロー 1階
●交通／梅ヶ丘駅徒歩5分
●参加費／100円
●申込み／電話かメール。メールの場合、件名に「ご近所カフェ」とし、①名前②電話番号③リクエスト曲をお送りください。
●問合せ／梅丘ボランティアビュロー
TEL 3420・2520
unebor@otagaisama.or.jp

東 NPO・市民活動応援セミナー 「NPOのはじめの一步」これから活動をはじめるあなたへ」

活動を立ち上げたい！と思う方を対象にしたセミナーを実施します。やりたいことはあるけれど、なにかから始めたらいいんだろ？そんな疑問にお答えします。

ZOO法人や任意団体の方も大歓迎！今の活動を振り返るきっかけにしませんか？講師は、東京ボランティア・市民活動センターの森玲子氏です。

●日時／3月18日（土） 13時～16時

●場所／世田谷ボランティアセンター（世田谷区下馬2・20・14）

●交通／三軒茶屋駅徒歩10分



もつと語ろう不登校

これまで27年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時／3月18日（土） 14時～
●場所／NPOフリースクール僕

Part 276



●申込／左記の2次元コードまたは電話でお願いします

●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

ランチ（代田4・32・17）またはZOOM会議にて

●交通／梅ヶ丘駅徒歩10分

●条件／事前申し込み制

●問合せ／世田谷ごどもいのちのネットワーク第3分科会「もつと語ろう不登校」担当 高橋

090・3905・8124
fsbtoru@yahoo.co.jp

東 ささえる会 防災講座 「私の在宅避難」参加者募集

『在宅避難』をよく理解し、その日その時を知って、考えて、今出来る事を見つけてみましょう。昨年開催した防災シンポジウムからも学びます。「世田谷ボランティア協会」をささえる会が主催します。

●日時／3月25日（土） 10時～11時半

●会場／世田谷ボランティアセンター

参加者募集

ター（世田谷区下馬2・20・10）

●交通／三軒茶屋駅徒歩10分

●参加費／500円（資料代）

●定員／20名

●申込／電話受付

●問合せ／「世田谷ボランティア協会」をささえる会
TEL 5712・5101

Aーシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAーシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は左記QRコードからご覧ください。



世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854 ※
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888
- 烏山ボランティアビューロー 2023年4月開設

※4月から北沢ボランティアビューローに名称が変更になります。住所や電話番号は変わりません。

●いのちを大切にするとところ「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った!」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋 2F TEL (6804)0405
- スペースココカラ。(ぽーとせたがやパートナーセンター) 〒154-0002 太子堂 4-26-9 TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ! 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)

※事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ!

◆センター&ビューローより

烏山ボランティアビューローの開設まであと1カ月。3月29日、30日に内覧会を行います。活動場所に検討されている団体さんなど、ぜひ現地においでください。詳しくはP.7をご覧ください。

◆ふらっと& withより

梅と桜の咲くちょうど間のこの時期になると、日本が大きく揺れたあの日のことを思い出します。ふらっととwithは、今日も街に出かけます。日常のひと時を誰かと過ごせる時間を大切にしています。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます! 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です!

◆チャイルドラインより

これから春休みに入り、子どもたちはいろいろな気持ちを抱えているかと思います。私たちは、子どもたちの声に寄り添っていきます。

編集
後記

■「孤独」はギャンブルや薬物などに手を出す大きなきっかけになるという記事を読んだことがあります。特集でも語られているように、現代社会はストレスが多く、誰もが依存症になる可能性はあると思います。世田谷に、依存症者に対する回復支援を行っている「STORY」があることを多くの方に知って欲しいです。

■左肩や腕にしびれがあり、病院に行って診察してもらったら、頸椎ヘルニアと診断されました。スマホの見過ぎかもしれません(苦笑)(近藤)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

